

県高校総体

(神戸新聞社後援)

5日は各地で17競技が行われ、サッカー男子は三田学園が決勝で神戸弘陵を1-1からのPK戦の末に破り、3年ぶり2度目の優勝を飾った。

卓球団体の男子は育英が4大会連続(2020年は中止)4度目、女子は姫路商が3大会連続3度目の頂点に立った。シングルの男子は

山下慧(育英)が初優勝。女子は高橋凜華(姫路商)が制し、4日のダブルスと合わせて2大会連続の3冠に輝いた。

バスケットボールの男子は報徳が4大会連続4度目の頂点に立ち、女子は市尼崎が5大会連続9度目の優勝を飾った。

小林寺拳法の男子組演武は福場香乎(たかや)、山本貴登(かんと)組(村野工)が連覇を果たした。女子単独演武は岡田菜心美(なごみ)、相生産(なごみ)が制した。弓道団体は三田学園が昨年に続き男女アベック優勝を飾った。

NEXTに写真集

市尼崎 5大会連続V 女子

決勝L1敗から復活

バスケット

(最終日、兵庫県立総合体育館)

今年も最後に笑ったのは市尼崎だ。バスケットボール女子決勝リーグで4校の激戦を制し、5大会連続の栄冠。自らの勝利後、別試合の結果によつて全国切符が舞い込み、前田主将は「やるべきことはやった。後はチーム一丸で相手を圧

様が見る、と思つてい」と胸をなで下ろした。冬の全国高校選手権に連続出場中の三田松聖との最終戦。1点を争う第4クォーター中盤、5人が腰を落とし、両手をド

ンと床に着ける「タッチ・ザ・フロア」で守備に入つた。今季から始めた作法だ。集中力を高め、

迫。パスを阻む。続いて加藤はスリーポイント、前田主将は速攻からレイアップシュートと攻め立て、4点差で振り切つた。今チームは170センチの長身選手が多く、地方も高い。だが4日の決勝リーグで神戸龍谷に苦杯。その後のミーティングで吉川監督は「君たちを信頼してない」とあえて言った。胸の内をさらけ出すことでチームの絆を深めたかたとい

バスケットボール女子決勝リーグ・三田松聖市尼崎 第4クォーター、果敢に攻め込む市尼崎の橋本(左) 兵庫県立総合体育館(いずれも撮影・坂井明香)

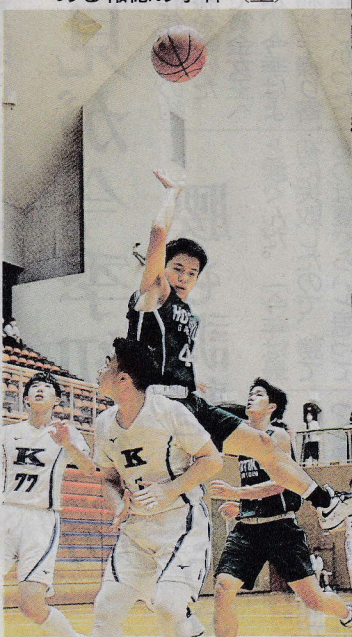


報徳	102	25292523	23183019
村野工	90	22151413	18181718
関学	64	64	71
双星	102	25292523	23183019
三田松聖	90	22151413	18181718
明石西	64	64	71
徳	102	25292523	23183019

市尼崎	66	16111722	16111916
三田松聖	62	62	73
報徳	102	25292523	23183019
村野工	90	22151413	18181718
関学	64	64	71
双星	102	25292523	23183019
三田松聖	90	22151413	18181718
明石西	64	64	71
徳	102	25292523	23183019

鳴尾	78	19211721	26241211
神戸龍谷	73	73	84
市尼崎	66	16111722	16111916
三田松聖	62	62	73
報徳	102	25292523	23183019
村野工	90	22151413	18181718
関学	64	64	71
双星	102	25292523	23183019
三田松聖	90	22151413	18181718
明石西	64	64	71
徳	102	25292523	23183019

男子 報徳全勝V 圧巻シュート力



元エースが観戦する前できなかった。バスケットで、恥ずかしいプレーはトボール男子の報徳は決

勝リーグ3戦全勝と圧倒。山崎主将は「兵庫県代表の責任を持ってインナーハイに行く」と誓つた。

米国留学から一時帰国中の元チームメイト、テブス流河が見守る中、最終戦の関学戦ではシュート力を発揮した。柏原中出身の小林は前半だけでスリーポイント4本を含む19得点。田中監督が「野性の勘がある」と評する通り、ゴール下では相手をひらりとかわして球をリングに預け、場内のどよめきを誘った。

テブスは去つたが、実は個性派がそろつた。中学時代、都道府県対抗大会を制した西村と高木の京都出身コンビや、小林と共に兵庫選抜だった溝上らだ。「キャリアのある子が多く、負けん気が強い」と指揮官がいう布陣で、外国人留学生抜きでどこまでやれるか挑戦する。(藤村有希子)